

自治体キャラバン行われる

6月26日

埼玉県社会保障協議会の自治体キャラバンが今年も全県で取り組みました。あらかじめ県の社保協から全自治体に「社会保障の拡充を求める要望書」を出しアンケートをとり、各自治体の取り組みをデジタルし、それを参考にしながらの懇談という行動です。皆野では16人の参加者で町の職員と懇談を行いました。

- 《懇談事項は》
- 一、国保税を引き下げて下さい。
 - 二、介護保険料引き下げと特養ホーム増設。
 - 三、障害者福祉の事業の拡充を。
 - 四、保育において処遇低下や格差を生じないように。
 - 五、学童保育運営は県の運営基準を最低ベースに。
 - 六、生活保護申請について

それぞれ質疑応答がありましたが特定健診の受診率が低いという点は自分の健康を維持する為にも受診した方がいいなと思いました。懇談内容にまたがって旧金沢小の有効利用についても意見が交わされました。



本の紹介 『神国日本のトンデモ決戦生活』

早川タダノリ著 筑波書房

戦前、戦中、戦争末期とどのよう一般庶民が教育され洗脳されていったのがよくわかる本です。生活の隅々までがんにがらめにされ、明治からの教育により、自分の頭で考えないような人間に仕立てられていった様子がよくわかりました。

第一次世界大戦においても英国や西欧各国の兵士集めのためのポスターなどでも同じようにあおられていたようです。二つの大戦の惨劇を経てつくられた日本国憲法。戦前の政治家を信奉する安倍首相も同じような手法を用いています。

昔の青年は、この本に出ているようなものがあふれていた頃をぜひ思い返して！ 今の青年もぜひ御一読を！ ちなみに勝利の日まで大増税というところには世が世なら秩父困民党のような武装蜂起もという文もありました。



議員のひょうぎ

常山 知子

議員になった時、高校の同級生が「町の財政に強くなることが一番！」と。初めはピンときませんでした。しかし、年がたつにつれてヒシヒシと感じてきました。

3月の予算審議、各議会の補正予算、9月の決算。町はどんなことにお金を使うのか、どこに力を入れているのか、そして結果はどうなったのか、町の財政は黒字なのか赤字なのか。何をすることもお金がかかわってくるのです。町の皆さんが納めた大切な税金の使われ方を議員がしっかりとチェックしなければなりません。そうは言っても、聞きなれない用語に、どこをチェックすればいいのか、自分で勉強するしかないのかな、と思っていた時に、多摩住民自治体研究所から勉強会のお知らせが届きました。各市町村の財政情報が開示されるようになり、住民による財政分析が活発になり住民の手で「財政白書」を作っているところもあるようです。多くの住民が自治体財政に関心を持ってもらいたいところですが、勉強会に参加してみましたが、頭の中は混乱状態です。

大企業の内部留保を賃上げに！

原発ゼロこそ経済に展望ひらく！

生活・法律相談 お気軽にご相談下さい

町議会議員 常山 知子

電話・FAX 62-6733